

# おおむた市営住宅整備史

～ 60 年の記録 ～

おおむた市営住宅研究会

## 大牟田市の概要

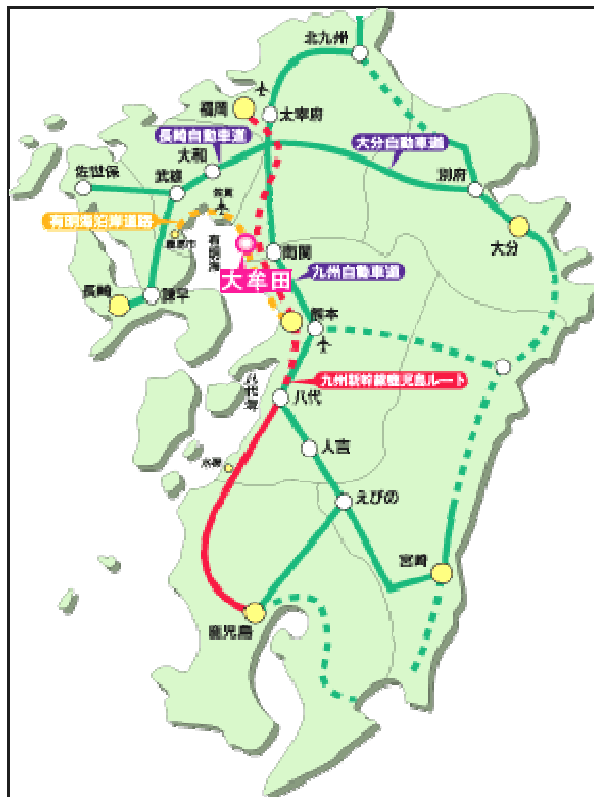
市制施行	大正 6(1917)年	面積(H.18.4)	81.55 km <sup>2</sup>
人口( )	131,089 人 (男 594,452 人 女 71,638 人)	世帯数( )	50,492 世帯
昼間人口( )	142,942 人	老年人口比率( )	28.0%
市の花/市の木	やぶつばき / くぬぎ	特産品	有明のり、かすてら饅頭、タイラギの貝柱粕漬、三池たかな漬け、山川みかん

### 都市の沿革

15 世紀に『燃える石』発見。藩営、官営による石炭採掘を経て、明治 24 年に三井三池炭鉱となる。以来、鉱工業都市として発展したが、エネルギー政策の転換で石炭産業は斜陽化し、平成 9 年 3 月閉山。現在の主力産業は化学工業。

『やさしさとエネルギーあふれるまち・おおむた』をキャッチフレーズに、閉山後の新たなまちづくりを展開している。

は平成 17 年国勢調査による



## はじめに

大牟田市が公共賃貸住宅の供給を始めてから 60 年が経過した。終戦直後の「越冬住宅」から現在建てられている最新の住宅まで、市営住宅は劇的な進化を遂げている。その姿は、我が国の発展と時々々の社会経済情勢を反映したものである。

市民の生活においても、井戸や風呂など、モノを共有しないと生活できなかった時代を経て、世帯が独立した生活を営むようになり、世帯の中でも個々人がそれぞれにライフスタイルを持つようになった。地方都市においても市民の価値観は多様化し、住宅というハードにも形となって現れている。

過去には必ず学ぶべきことがある。市営住宅をテーマとしつつ、大牟田のまちの発展と将来を考える。それがこの研究会の発足のきっかけであり、目的であった。

幸いにも、散在的にはあるが、大牟田市には過去の住宅関連の資料が残っていた。当時の担当者の華々しい活躍が読み取れるものもあれば、苦悩の表情が目には浮かぶようなものもある。その時々で汗をかかれた関係者の心境を正しく読み取り、表現するにはまだまだ未熟であることは十分に承知しているが、メンバーの知恵を結集して歴史を一本の糸につなげることに挑戦した。

なお、今回、作業に要する時間は 1 年限りと決め、研究の成果をまとめた。60 年を超える住宅整備の歴史を整理するには時間的に無理があった。したがって、本書の記述に事実の誤認や正確さに欠くものがあると思われる。そのような箇所を発見されたら是非ご指摘いただきたい。

また、本書が住宅分野に限らず、大牟田のまちづくりの歴史として、そしてこれからのまちづくりの参考として活用していただければ望外の幸せである。

平成 19 年 3 月 おおむた市営住宅研究会

## 目次

大牟田市の市営住宅整備のあゆみ	5	19. 橘引揚者住宅	45
大牟田の市営住宅	13	20. 西橘住宅	45
1. 一部住宅・馬込住宅	15	21. 白銀住宅(木)・白銀住宅(鉄)	47
2. 八校跡住宅	17	<i>Memo3</i> 北部地区の市営住宅	51
3. 青校跡住宅	18	22. 白川住宅	53
<i>Memo1</i> 営団住宅~応急簡易住宅建設と処分~	19	23. 白川(一)住宅	55
4. 三鈺跡住宅・小浜簡易耐火住宅	21	24. 松原町住宅	56
5. 九電跡住宅	23	25. 鳥塚町住宅(旧)	57
6. 柿園町住宅	25	26. 明治町住宅(公営)	58
7. 明治町住宅(営団)	26	27. 吉野住宅・吉野さくら住宅	59
8. 長溝町住宅	28	28. 西浜田住宅	61
9. 新地住宅(木)・新地鉄筋住宅	29	29. 小浜町住宅(旧)	62
10. 小浜鉄筋住宅	29	30. 川尻住宅	63
11. 八尻町住宅	34	31. 明治町引揚者住宅	64
12. 亀谷町住宅(旧)	34	32. 瓦町住宅	65
13. 新地(一)住宅	36	33. 橘住宅(木)・橘住宅(鉄)	66
14. 中町住宅	37	34. 平原町住宅	69
15. 若宮住宅(木)・若宮住宅(鉄)	38	35. 南橘住宅(木・簡)・南橘住宅(鉄)	71
16. 右京町住宅(木)・右京町住宅(鉄)	40	36. 新地簡易耐火住宅	74
<i>Memo2</i> 右京町住宅敷地と福岡県大牟田土木事務所の移転	42	37. 三池中町住宅	75
17. 龍湖瀬住宅(旧)	43	38. 萩尾住宅	76
18. 三池新町住宅	44	39. 南白銀住宅	77

40．三池築島住宅	79	59．小浜町 44 住宅	114
41．中白銀住宅	80	60．米生町 991 住宅	114
42．健老町住宅	81	61．川尻火葬場内住宅	115
43．原の前住宅	82	62．原山町住宅	115
<i>Memo4</i> 大牟田市の財政再建	84	63．宝坂町住宅	116
44．歴木住宅	86	64．松原町住宅（公舎）	116
45．三里町住宅	87	65．昭和町住宅	117
46．千代町住宅	87	66．大黒町住宅	117
<i>Memo5</i> 住宅地区改良事業の地区外建設	90	<i>Memo8</i> 大牟田地区の県営住宅	118
47．高泉住宅	91	参考資料	121
48．通町住宅	94	市営住宅整備位置図	122
49．鳥塚町住宅（新）	94	罹災都市応急簡易住宅建設要綱	123
50．東谷住宅	97	市営住宅整備費一覧表	125
51．小浜東住宅	99	昭和31年の住居価(市政だより昭和31年8月10日号)	133
52．龍湖瀬住宅（新）	100	大牟田市の第一期住宅建設が年価(昭和41年10月1日作成)	134
53．船津住宅	102	市営住宅の使用料の変遷（固定家賃時代）	136
54．勝立住宅	103	市営住宅譲渡価格一覧表	140
<i>Memo6</i> 南部ニュータウン計画と勝立地区開発計画	105	市営住宅の火災・事故	141
55．亀谷住宅（新）	108	初期の市営住宅の図面	147
56．小浜南住宅	110	市営住宅の整備・廃止の履歴	156
<i>Memo7</i> 公舎として使用された応急簡易住宅	112	《参考文献》	165
57．有明町 36 住宅	113	《編集後記》	166
58．笹林町 3 住宅	113		

## 本書の記載に関する一般事項

本書は、公営住宅、建築、行政及び大牟田市に関して一定の知識を有する人による活用を想定して作成している。本文中の専門用語の解説については割愛している。

本書は、行政資料等に基づき記述しているが、資料の違いによって、一つの事実に対し、二つ以上の数字、年度等が掲載されていることもあった。( 住宅の床面積は、資料Aでは m<sup>2</sup>、資料Bでは m<sup>2</sup>。事業費や実施年度等にも相違が見られる ) そのような相違点については、本会の独自の判断で事実と思われるものを採用している。よって、本書の記載事項には大牟田市の行政組織としての公式記録、公式見解と異なる場合がある。

本文中の「大牟田市」は行政組織を指しており、市域については「大牟田」「大牟田地区」等の表現とし峻別している。

年号については、年の後に月または月日を記載しているものを除き、官公庁の会計年度(当該年の4月1日より翌年の3月31日まで)としている。

写真の題名の後の括弧書きは撮影年(暦日年)を記載している。

住宅名については、一般的に使われる呼称で記載しており、必ずしも大牟田市営住宅条例の正式名称と一致するものではない。条例名称が異なるものは次のとおりである。

(【 】は条例の名称。条例名称で地名等の後に付いている「住宅」は省略)

八校跡【小浜町(元八校跡)】・青校跡【小浜町(元青校跡)】・三鉦跡【小浜町(三鉦敷地)】・九電跡【小浜町(九電敷地)】・柿園町【柿園町(三染敷地)】・新地(木)【新地町】・新地(一)【新地町一】・龍湖瀬(旧)【龍湖瀬町】・三池新町【三池】・白川(一)【白川一】・新地簡易耐火【新地町住宅(準耐)】・小浜簡易耐火【小浜町住宅(準耐)】・三池築島【築島】・新地鉄筋【新地町(中耐)】・小浜鉄筋【小浜町(中耐)】

なお、本文中の明治町(営団)、明治町(公営)、明治町引揚者住宅は、条例上はすべて明治町住宅とされていたが、住宅の規模、建設、取得の経緯、敷地の離隔等を勘案し、分割して記載している。

同一敷地での建替えにより、構造が変更したものに関しては名称の後に木造は「(木)」、鉄筋コンクリート造は「(鉄)」等の括弧書きを付し、従前の住宅と建替後の住宅を区別している。

同一住宅名で建設場所が異なる住宅については、先に建てられた住宅に「(旧)」、後に建てられたものに「(新)」を付している。